
ふたりぼっちの世界

慧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ふたりぼっちの世界

【Nコード】

N3348M

【作者名】

慧

【あらすじ】

彼女を好きになっではいけないのに、
想いは、ただただ募るばかり。

恋人のいるのに俺に恋した最低な彼女と、
その恋人が自分自身の友達だとわかっているのに
好きになってしまった最低な俺。

ざあざあ而降りしきる雨の中、大きな雷の音が鳴り響き、彼女の体がびくつと震えた。

そんな彼女に大丈夫なんて声をかけてやるわけでも、抱きしめてやるわけでもない俺の口から

漏れた言葉は自分でも酷いものだと思った。

「いちいちそういう反応されると、うっざいからやめろ」

彼女は申し訳なさそうにごめん、と言って耳を塞ぐ。

別に彼女は何にも悪くは無かった。

俺は最低だ。

しかし、彼女もまた、最低だった。

彼女には恋人がいた。

しかもそれは、俺の友達。

友達を通して俺を知り、俺を好きになったものの、別れを告げられず二股をかけている、

清純無垢な見た目とは正反対な、ずるくて卑怯な性格。

—いらいらする。

俺は別に何を聞いていたわけでもないのに、つけていたヘッドホンを外し、彼女の元に行く。

彼女はそれに気づいて、こちらを見た。

その瞳には確かに俺が映っていた。

彼女はどうして俺のことなんて好きになったのだろうか。

こんな性格なのに。

よっぽどのマゾヒストだろうか。

いや、それは違うだろう。

—はやく・・・。

はやく、はやく、俺を嫌ってくれればいいと思う。

はやく俺を嫌って、嫌って、俺から離れていけばいいと思う。

これ以上俺のそばにいないでほしいと思う。

俺から嫌いになるのは、無理なのだから。

意味のないヘッドホンをつけてるのだって、彼女に話しかけられてドキドキして、余計に好きになるのが嫌だからで

彼女に冷たく接するのも、これ以上彼女を好きになって関係を深めなくなかったからで

今以上に、好きになったって叶わないと知っている。

今以上好きになってしまったら、友達を裏切ることと同じ。

でも、好きの気持ちは確実に加速していく。

「……………ごめん、うざくない、可愛い、だから、ほら」

若干潤んでいた彼女の目元にキスを落とし、抱きしめてやる。

だめだ、と知っているのに抑えられない。

彼女よりももっと最低な俺の末路はどんなものなのだろうか。

すべてを、失うのだろうか。

それでも、彼女だけは。

（二人だけの世界だったら
どれだけ、彼女を愛してあげられただろうか）

（後書き）

初投稿となると思いますが・・・
とりあえず、文下手ですいません。

というか、文才とかなにそれおいしいのレベルな小説で申し訳ないです；

明るめの恋愛系をこれからは書いていきたいものですね。

夢小説に影響されてる感があるのは
作者が夢小説愛してるからです（＊、A、＊）

では、読んでくださって有難うございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3348m/>

ふたりぼっちの世界

2010年10月22日13時16分発行